

ニットキャップシアター 第44回公演

よりそう人

2023年12月22日(金)～25日(月)

THEATRE E9 KYOTO

脚本 | ごまのはえ

演出 | 西村貴治

助成 |  文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興基金

提携 | THEATRE E9 KYOTO(一般社団法人アーツシード京都)

後援 | 舞鶴市 京都市 京都府

協力 | 烏丸ストロークロック 一般社団法人桜 art アンサンブル

取材協力 | 舞鶴引揚記念館

京都芸術センター制作支援事業

企画・製作・主催 | 一般社団法人毛帽子事務所 ニットキャップシアター



ご挨拶

本日は寒い中ご来場いただきありがとうございます。

これまでは、劇作家のごまのはえ自身が演出をし、ニットキャップシアターの世界観を創作してきましたが、今作は劇団員で演者の、私、西村が演出を担っております。いつもニットキャップシアターをご覧になっているお客様にとっては多少の違和感を感じられるかもしれませんが、最後まで楽しんで観ていただければ嬉しい限りです。

今作『よりそう人』は、2018年から2020年にかけて京都府舞鶴市で実施した「まいつる物語プロジェクト」から生まれ、その集大成として執筆された戯曲です。私自身も2年間このプロジェクトに携わり、多くの物語や景色、舞鶴の方々と触れ合ってきました。そこで感じたものを丁寧に、舞台に現せるよう心がけて作ってきました。

劇場からの帰り道が、皆さんにとっての「よりそう人」を想い、また懐かしむような時間になりますように。

演出 西村貴治

◆第一幕「山の家」

東舞鶴の山の中腹にある集落の家が舞台。

一幕一場 昭和27年(1952年)12月

一幕二場 昭和28年(1953年)9月

一幕三場 昭和33年(1958年)7月

◆第二幕「海の映画館」

海軍の街として栄えた東舞鶴の港近郊にある「浮島映画館」が舞台。

二幕一場 昭和39年(1964年)9月

二幕二場 昭和56年(1981年)1月

二幕三場 昭和61年(1986年)7月

登場人物

みちよ…阪本麻紀

山の中腹の集落に住む家族の長女。戦争で身寄りをなくした子供達の面倒をみる「寮」で働いている。昭和七年生まれ。

すみ ……高原綾子

みちよの妹。みちよと9つ違い。すぐ口ごたえする。

あきえ…仲谷萌

みちよらの従妹。満州からの引き揚げ者で、みちよらの家族と一緒に暮らしている。みちよと3つ違い。「浮島映画館」によく出入りしている。

川谷 ……門脇俊輔

舞鶴市内の中学校教師。病身の妻と息子がいる。

俊章 ……山谷一也

川谷の息子。後に聖火ランナーに選ばれる。

信介 ……澤村喜一郎

海のそばにある映画館「浮島映画館」の二代目。

浩介 ……上条拳斗

信介の息子。勉強が嫌い。

母 ……阪本麻紀

少女 ……高田晴菜

面会室の女性…高原綾子

近所の人 / 映画館の客 / スポーツ用品店の従業員 / 通訳…山谷一也

立会人…門脇俊輔

舞台監督 | 河村都 (華裏) 照明 | 葛西健一 音響 | 三橋琢
音楽 | 北航平 (coconoe/studio guzli) 衣裳 | 清川敦子 (atm) 小道具 | 仲谷萌
演出助手 | 小山裕暉 (テノヒラサイズ) 宣伝美術 | 山口良太 (slowcamp) 絵 | 竹内まりの
舞鶴弁指導 | 椿幸恵 新谷一幸 中国語翻訳 | 呉光倩
制作 | 門脇俊輔 高原綾子 澤村喜一郎 高田晴菜 渡邊裕史 (ソノノチ)
宣伝映像・映像撮影 | 飯阪宗麻 (NOLCA SOLCA Film) 記録写真 | 井上嘉和

スペシャルサンクス | 彩椿 岩木すず 金本大空 相馬優衣 中城祿磨 波多野まどか 高橋紘介
垂井美里 野坂達哉 横田由真 吉岡ちひろ 合同会社 nochi タコとケンタロー

同時開催「よりそう人」写真展

ディレクター | ごまのはえ コーディネート | 中谷和代 渡邊裕史 設営協力 | neco
京都府文化力チャレンジ補助事業

※本パンフレットは、ニットキャップシアター 第 44 回公演時に会場で配布したものの
データ版になります。